

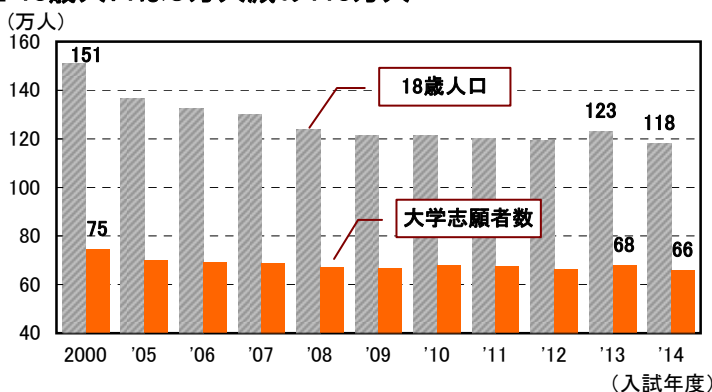
文低理高、地元志向は継続

師走を迎え、推薦入試の結果が聞こえてくる時期になりました。いよいよ年明けからは、センター試験を幕開けに2014年度入試が本格化します。2014年度は18歳人口の減少により、大学志願者数も減少する見込みです。また、翌年の2015年度から新課程入試になるため、入試科目や方式に大きな変更は見られません。このような環境で、受験生の志向にも変化はなく、ここ数年続く「文低理高」や「地元志向」は2014年度も変わらないようです。なお、私立大ではキャンパス移転やネット出願の拡大などが盛んで受験生の志望動向に影響を与えそうです。

河合塾では、今秋、高3・卒生を対象に第3回全統マーク模試(受験者数約29万人)を実施しました。大学志願者(約66万人)の4割強が受験する全国最大規模の模擬試験です。河合塾が収集した入試情報と、この模試の結果を参考に、2014年度入試の直前動向をまとめました。

2014年度入試の受験環境

■ 18歳人口は5万人減の118万人

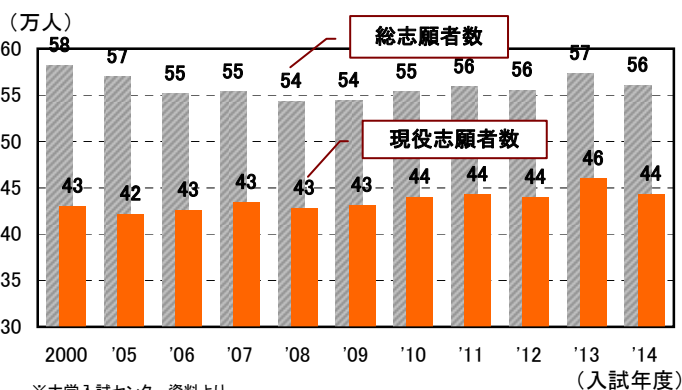


※「学校基本調査報告書」より(2014年度大学志願者数は河合塾推定)

大学志願者数は減少の見込み

来春の18歳人口は5万人減少する。これに伴い大学志願者数も約2万人減少する見込み。18歳人口は2000年には150万人を超えていたが、その後大きく減少し、近年は120万人前後で推移していた。今春(2013年度)は18歳人口が大きく増加した年だったが、来春は一転して減少する。5万人の減少は率にすると4%となる。これに伴って現役の大学志願者数は減少するだろう。一方、既卒生(浪人生)の大学志願者は昨年より増加している。これらを勘案し、大学志願者数は2万人程度減少する見込みである。

■ 2014年度 センター試験志願者数

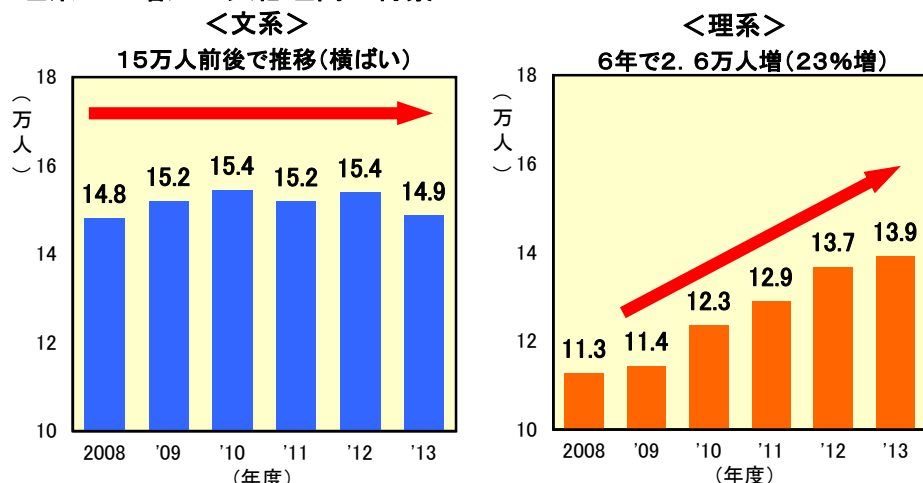


※大学入試センター資料より

センター試験の志願者も減少

11月末にセンター試験の確定志願者数が発表された。2014年度の志願者数は56万670人で、前年から1万3千人弱減少した。率にして2%の減少である。内訳を見ると、現役生で約1万7千人減、既卒生は約4千2百人増となっている。現役生の減少率は4%で、18歳人口の減少率と一致しており、大学志願者数の減少を裏付ける。一方、既卒生は4%増加しており、この結果、全体の減少率は低く抑えられている。

■ 理系生の増加～文低理高の背景



※第3回全統マーク模試より ※文理は本人のマークによる(マークがない場合は志望校にて判別)

理系生の増加続く

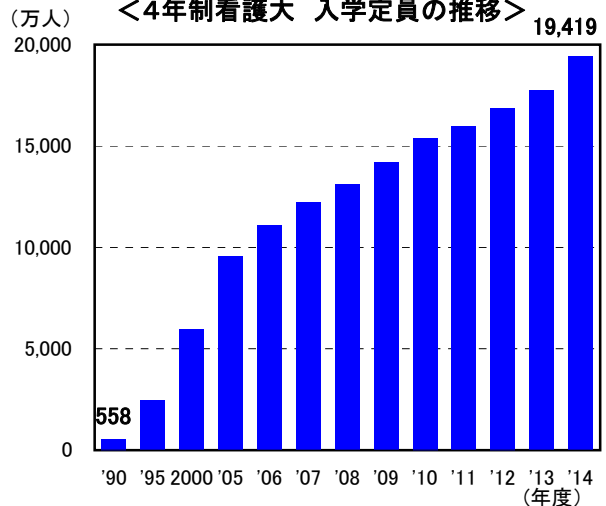
近年、理系受験生が増加している。左グラフは第3回全統マーク模試における文系・理系受験者数の推移。文系生は15万人前後で推移しており、今年は前年より5千人の減少となっている。一方、理系生はこの間増加の一途をたどっており、今年も前年から2千人増加した。2008年からの6年間では2万6千人、率にして23%増加している。この理系生の増加が、近年の学部系統人気の特徴である文低理高の背景となっている。

■ 大学・学部の新設状況～医療系・教育系が盛ん

<2014年度主な新設大学(学部・学科)>

- 大学の開設
 - (公)山形県立米沢栄養大、敦賀市立看護大
 - (私)日本医療大、京都看護大、大和大
- 学部・学科の新設・改組
 - (国)秋田大 工学資源学部→国際資源学部、理工学部
 - (国)奈良女子大 文・理・生活環境学部内で学科改組・再編
 - (国)長崎大 多文化社会学部
 - (公)静岡県立大 食品栄養科学部(環境生命科学科)
 - (私)上智大 総合グローバル学部
- 看護学科
 - 敦賀市立看護大、日本医療大、北海道科学大、青森中央学院大、足利工業大、聖徳大、千葉科学大、帝京大(福岡医療技術)、東京家政大、文京学院大、朝日大、中京学院大、鈴鹿医療科学大、京都看護大、大和大、奈良学園大、安田女子大、防衛医科大
- 教育学部
 - 北翔大(教育文化)、東京家政大(子ども)、愛知東邦大、大阪成蹊大、プール学院大、大和大、関西福祉大(発達教育)、奈良学園大(人間教育)、宮崎国際大

<4年制看護大 入学定員の推移>



※文部科学省資料より(2013・2014年度は河合塾調べで2014年度は予定数)

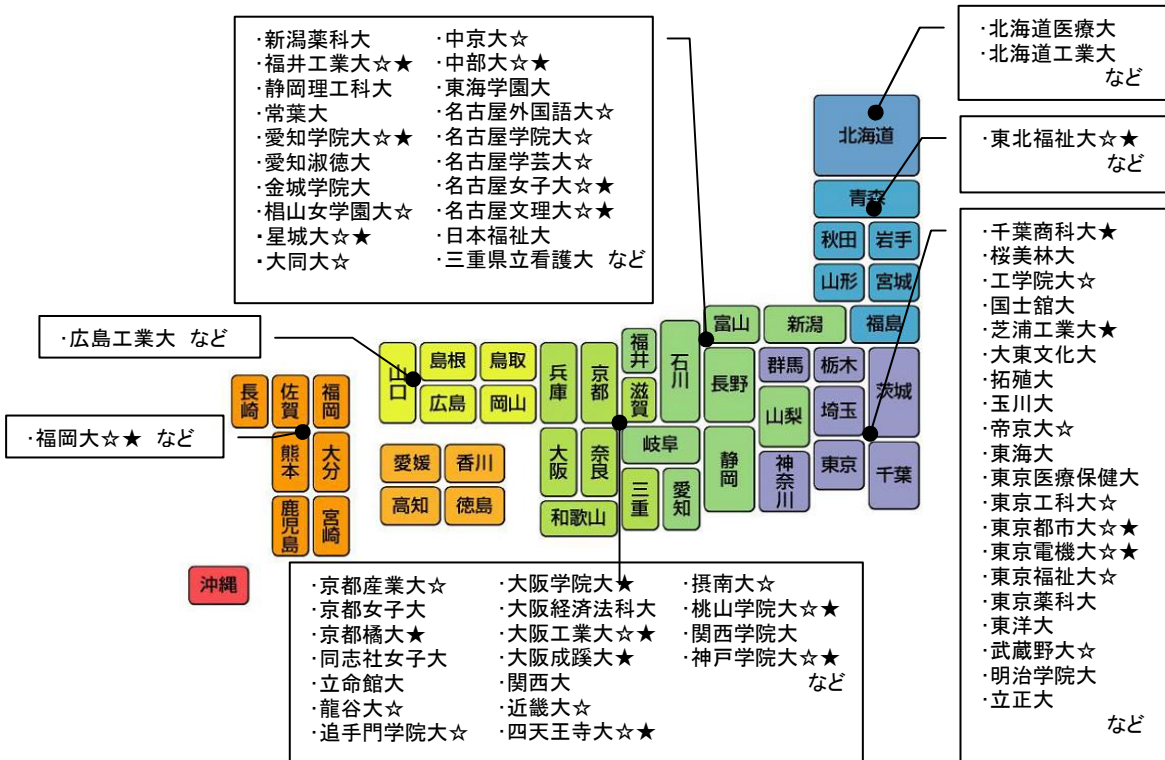
看護系では入学定員が急増

表は2014年度に新設が予定されている主な大学・学部。大学の開設では、公立2大学、私立3大学が設置される。来春も医療系、教育系の新設が目立つ。医療系ではとくに看護学科が新設ラッシュとなっている。新設4大学や防衛医科大も含め、18校が新設される。教育系でも9大学で学部が新設される。右グラフは看護系4年制大学の入学定員の推移。かつては、看護師養成は短大および専門学校が担っていたが、医療の高度化などを受け、90年代後半から4年制化が急速に進んだ。2006年には1万人を超え、今なお伸び続けている。看護系入学定員は来春も2千人近く増加し、2万人に迫る勢いである。

■ インターネット出願の拡大

<2014年度入試 主なネット出願実施大学>

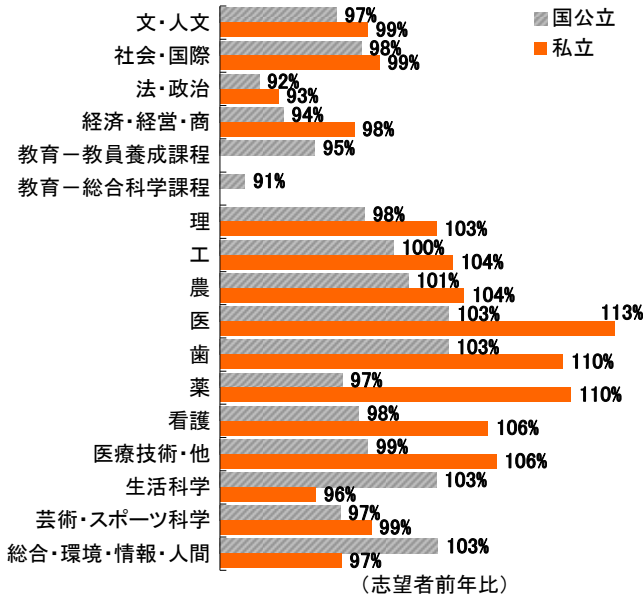
☆=ネット割引導入校 ★=ネット出願新規実施校



拡大するインターネット出願 来春はネット出願のみの大学も登場

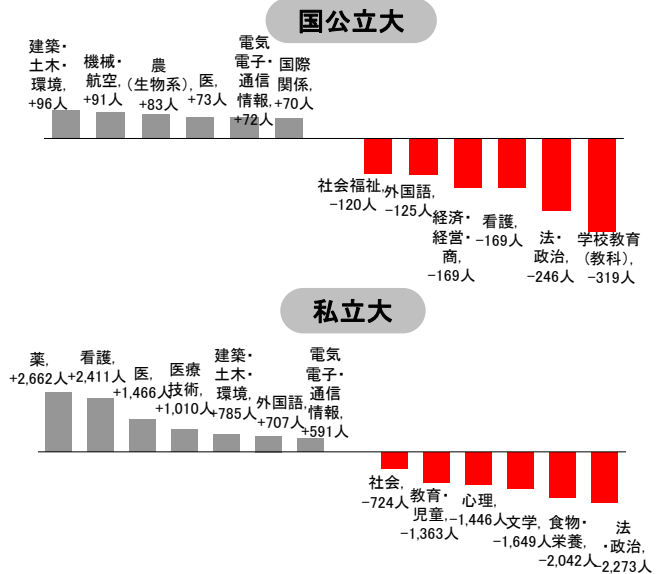
インターネットを利用した出願が、私立大を中心に広がっている。大学としては事務処理負担の軽減が見込めること、受験生にとっては24時間出願が可能となえ、ネットで出願すれば受験料を割引く大学も多く、双方のメリットが鮮明になったことから、ネットによる出願は徐々に一般化していくと考えられる。2014年度からは、いよいよ出願手段をネットに一本化する大学もあらわれた。東洋大、武蔵野大、中京大、近畿大の4大学は、2014年度より一般入試の出願は原則ネットのみの受け付けとなる。

■ 系統別志望数の推移



※第3回全統マーク模試より
※国公立大は前期日程、私立大は一般+センター方式で集計

＜女子受験生の動向＞



志望者増加分野

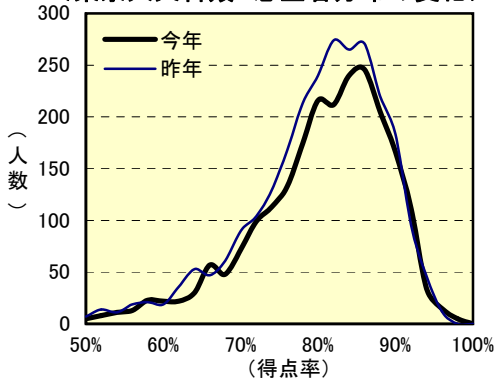
志望者減少分野

文低理高は継続、医療系が人気

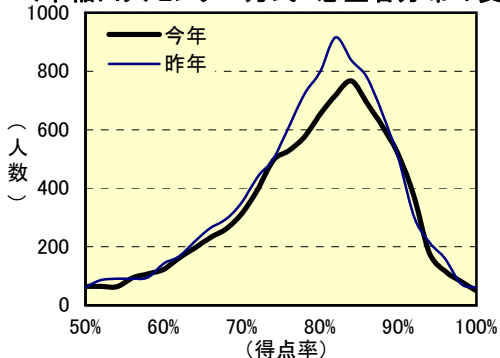
学部系統別の志望動向をみると、国私ともに「法・政治」「経済・経営・商」で志望者が減少、理系の各系統は概して志望者が増加している。また医療系では志望者が大きく増加している分野が目立つ。とくに私立大の医学科、歯学部、薬学部は志望者が1割以上増加しており、人気となっている。私立大の医学科では、近年、学費値下げの動きが相次ぐ。中には初年度学費が300万円を切る大学も登場しており、これが人気の要因のひとつであろう。工学系、医療系では女子受験生の増加が目立つ。右は女子志望者の増減が大きかった分野を抜き出したグラフ。志望者増加分野には、国私とも「建築・土木」「機械・航空」などの工学系分野が並ぶ。いわゆる「リケジョ」の増加が理系人気を支えている。一方で、社会科学系、人文系、教育などは減少している。この教育系、児童系、そして私立大の食物栄養系は、一頃人気であったが、同じ資格に直結する分野でも一律に人気となっているわけではない。資格系でも医、薬など難関資格に人気が出ている様子が感じられる。

■ 東京大、早稲田大の志望者減少

＜東京大文科類 志望者分布の変化＞

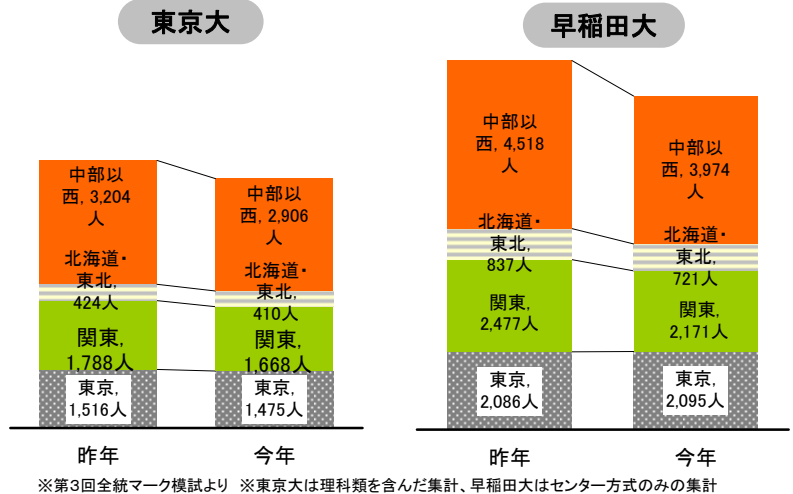


＜早稲田大センター方式 志望者分布の変化＞



※第3回全統マーク模試より

＜出身地域別志望者数の変化＞



※第3回全統マーク模試より ※東京大は理科類を含んだ集計、早稲田大はセンター方式のみの集計

地元志向で、地方からの東京大、早稲田大の志望者減少

近年、大学入学後の生活費の負担や地元での就職を考慮して、地元の大学へ進学したいという地元志向が強まっている。こうした影響を受け、とくに首都圏の全国区の大学で地方からの志望者の減少が目立つ。東京大では今回の模試の志望者は前年比94%。とくに文科類では前年比88%と1割以上減少している。得点率70~90%のあと一息で手が届く成績層で志望者の減少が目立つ。早稲田大の志望者は前年比93%とこちらも減少している。とくにセンター方式では前年比90%と減少が目立つ。得点率80%前後で大きく減少している。東京大、早稲田大の志望者を出身地区別にみると、中部以西出身の志望者が大きく減少していることがわかる。